

部活動規則の有無が大学生アスリートに及ぼす影響

1240431 熊野遥奈

指導教員 前田和範

研究背景

近年、日本ではブラック校則やブラック部活の話題が注目されており、部活動内で存在する「部活動規則」も要因の1つとして、運動部離れが進んでいる。文部科学省は、2018年に「生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効果的に取り組むこと」として運動部活動の在り方を提唱した。先行研究では、スポーツ指導者の統制的行動は、アスリートのモチベーションや競技力向上に正の影響を及ぼさないことが明らかになっている。本研究では、部活動規則の有無や内容による大学生アスリートに及ぼすモチベーションや競技力への影響に注目する。

研究目的

本研究では、大学生アスリートを対象に、高校時の部活動規則の有無や内容による統制的行動を調査することで、アスリートのモチベーションや競技力に及ぼす影響を明らかにし、部活動規則やスポーツ指導者による統制的行動の重要性を検討することである。

研究方法

高知工科大学、東京女子体育大学、同志社大学、東洋大学、日本体育大学などの大学生アスリートを対象にモチベーションに関する18項目を調査項目として設定した。アンケート調査の結果から、それぞれの項目の平均値比較と相関分析を行った。

分析結果

アンケート調査の分析を行った結果として、部活動規則の有無がモチベーションに及ぼす影響に関する関係性を読み取ることができないことや部活動規則に賛成のアスリートが多いことが分かった。しかし、私生活に関する部活動規則があったと答えたアスリートは本質的モチベーションが低いことが分かった。また、部活動規則はチームメイトが介入して決めた方が良いという結果が得られた。

考察・結論

これらの結果より、ある程度の部活動規則は必要だと感じているアスリートの方が多いことが分かったが、私生活に関与する部活動規則の重要性や決定者については、チームメイトが介入して決定した方が自主性を尊重できるのではないかと示された。